

日本環境効率フォーラム平成 19 年度活動報告(案)

1. 活動内容

(1) 環境効率推進活動(環境効率手法の活用, 改善, 発展等の検討)

総会

- ・平成 19 年 5 月 28 日, 発明会館において開催。
- ・平成 18 年度活動報告(案), 平成 19 年度活動計画案及び収支計画(案)を審議し承認された。

運営委員会

開催なし(前年度最後の運営委員会にて, 平成 19 年度総会に諮る事項を審議した)

環境経営評価指標研究WG(平成 19 年度継続)

- ・環境経営促進のための市場や社会に対する働きかけおよび環境経営評価指標の研究等の具体策について検討を行い, 『マテリアルフローコスト会計(MFCA)とCO2を含めた環境負荷削減取組み事例』をとりまとめた。成果については, 5月23日のセミナーで紹介した。(13社参加)

ICTの環境効率評価のための価値の検討WG

- ・ICTソリューションの環境効率算出に必要な「価値」の定量化に関する検討, 算出ルールのブラッシュアップ, および普及促進活動に関する検討を行った。『ICTの環境効率評価のための価値の検討』報告書を取りまとめた。報告書については, ウェブにアップロードした。20年度は研究会として活動を継続する。(13社参加)

ファクターX標準化WG

- ・電機8社により, ファクター標準化の検討を行った。20年度中に3製品を対象として, 製品ごとのガイドライン作成に向けた検討を行った。20年度にガイドライン完成に向け, 検討を続けている。(8社参加)

(2) 普及啓発活動

環境効率アワード 2007

- ・環境効率アワード 2007 選考基準検討小委員会

平成 19 年 7 月 10 日 (社)産業環境管理協会 7 階 D 会議室にて開催。環境効率アワードのロゴを公募することを決定。

- ・環境効率アワード 2007 選考委員会

平成 19 年 10 月 22 日 (社)産業環境管理協会 7 階 D 会議室にて開催。審議の上, 各賞を選考した。各賞は次ページの通り。環境効率アワードのロゴの選考を行い, 右図のロゴを選定した。

環境効率アワードのロゴマークを公募し, 選考の結果, 京都市の齋藤 寛さんの作品が選ばれました。



地球環境を原点に, スピードと一定の方向性を持って飛び出す(発展する)経済社会の在り方をイメージしました。

それぞれ「E」「C」「O」をシンボライズした3つのエレメントで構成し, エコイノベーションに対する強い意志と開発の気持ちを込めて, 全体を感嘆符 (!) のモチーフにまとめました。

第 1 号議案

経済産業省産業技術環境局長賞

普及促進活動部門	株式会社東芝 「東芝グループの環境経営を支える環境効率指標の推進と国内外での普及促進活動」
----------	--

日本環境効率フォーラム会長賞

製品活動部門	株式会社豊田自動織機 「豊田自動織機の環境配慮型製品認定制度」
--------	------------------------------------

奨励賞

企業活動部門	旭硝子株式会社 「『A G C環境指標』の設定」
--------	-----------------------------

特別賞

製品パフォーマンス部門	松下電工株式会社 ドレッシング事業部 「全自動お掃除トイレ アラウーノ」
	セイコーエプソン株式会社 「大判インクジェットプリンタの環境効率の改善」
マテリアルフローコスト会計部門	キヤノン化成株式会社 「環境負荷低減とコストダウンを同時に実現する『夢のE + Q C D』活動」
	田辺製薬吉城工場株式会社 「マテリアルフローコスト会計活用による廃棄コストの削減」
	日東電工株式会社 「日本で初めてマテリアルフローコスト会計を企業的意思決定に採用」

セミナーの開催

- ・平成19年5月28日 環境効率セミナー
総会終了後、発明会館ホールにおいて開催。
- ・平成19年12月14日 環境効率アワード2007記念講演
エコプロダクツ展会期中、東京ビックサイト会議棟6階607+608号室において開催。

2 . 活動日誌

【総会】

2007.05.28 フォーラム総会

【環境効率アワード 2007】

2007.12.14 表彰式・記念講演（エコプロダクツ展同時開催）

【セミナー】

2007. 05.28 環境効率セミナー

【運営委員会】

(2008.04.17 平成 20 年度第 1 回運営委員会)

【ワーキンググループ】

環境経営評価指標研究 WG(昨年度より継続)

2007.05.25 第 4 回環境経営評価指標研究WG

2007.07.04 第 5 回環境経営評価指標研究WG

2007.08.02 第 6 回環境経営評価指標研究WG

2008.01.11 第 7 回環境経営評価指標研究WG

2008.02.18 第 8 回環境経営評価指標研究WG

ファクター X 標準化 WG

2007.06.12 第 1 回ファクター X 標準化WG

2007.07.11 第 2 回ファクター X 標準化WG

2007.09.12 第 3 回ファクター X 標準化WG

2007.10.19 第 4 回ファクター X 標準化WG

2007.11.27 第 5 回ファクター X 標準化WG

2008.01.30 第 6 回ファクター X 標準化WG

2008.03.25 第 7 回ファクター X 標準化WG

ICT の環境効率評価のための価値の検討 WG

2007.04.25 第 1 回 ICT の環境効率評価のための価値の検討WG

2007.06.04 第 1 回 ICT の環境効率評価のための価値の検討WG

2007.09.10 第 1 回 ICT の環境効率評価のための価値の検討WG

2007.12.04 第 1 回 ICT の環境効率評価のための価値の検討WG

2008.02.01 富山県環境セミナー「グリーン I T : 情報通信社会を環境で測る」(WG 有志)

【ニュースレター発行】

2008.01.05 第 1 号

2008.04.22 第 2 号


2008.06.中旬 第 3 号

以上

監査報告書

平成19年度日本環境効率フォーラム会計書類について監査を行った結果、収支の状況を正しく示しているものと認めます。

平成20年4月15日

監事 キヤノン株式会社
環境本部
環境企画センター
課長 石塚 明克 

平成19年度 収支決算報告(案)

(単位:千円)

科目	予算(X)	実績(Y)	差引(Y-X)	
収入の部				
1.会費	1,065	1,040	-25	フォーラム年会費(法人会員) @ 20 × 49 社 = 980 フォーラム年会費(個人会員) @ 5 × 12 人 = 60
2.事業費	150	80	-70	セミナー参加費(非会員) @ 5 × 12 人 = 60 雑収入 @ 20 × 1 = 20
3.前期繰越金	118	0	-118	
収入合計(A)	1,333	1,120	-213	
支出の部				
1.セミナー関係費	620	343	-277	会場費 233 講師謝金 27 講師交通費 25 セミナー関係雑費 58
2.アワード関係費	305	267	-38	選定委員会謝金 74 旅費 41 会議費 2 アワード式典・受賞企業副賞等 98 アワード関係雑費 53
3.運営委員会活動費	254	0	-254	旅費 0 会議費 0
4.その他雑費	154	21	-133	諸経費・振込手数料 21
支出合計(B)	1,333	631	-702	
収支差(A-B)	0	489		

平成19年度 収支決算報告(案)

(単位:千円)

科目	予算(X)	実績(Y)	差引(Y-X)	
収入の部				
1.会費	1,065	1,040	-25	フォーラム年会費(法人会員) @ 20 × 49 社 = 980 フォーラム年会費(個人会員) @ 5 × 12 人 = 60
2.事業費	150	80	-70	セミナー参加費(非会員) @ 5 × 12 人 = 60 雑収入 @ 20 × 1 = 20
3.前期繰越金	118	118	0	
収入合計(A)	1,333	1,238	-95	
支出の部				
1.セミナー関係費	620	343	-277	会場費 233 講師謝金 27 講師交通費 25 セミナー関係雑費 58
2.アワード関係費	305	267	-38	選定委員会謝金 74 旅費 41 会議費 2 アワード式典・受賞企業副賞等 98 アワード関係雑費 53
3.運営委員会活動費	254	0	-254	旅費 0 会議費 0
4.その他雑費	154	21	-133	諸経費・振込手数料 21
支出合計(B)	1,333	631	-702	
収支差(A-B)	0	607		

小委員会・WG・研究会は独立して会計を行うため上記に含まず。

平成20年7月9日改訂